

# BY BLUE

Vol.  
11  
2002



(表紙イラスト：谷口いちご)

**特集**

あなたもフォーラムの一員

参加しよう!  
盛り上げよう

## 第3回世界水フォーラム

ボクの、ワタシの環境学習

大東市寺川こども会エコクラブ

ひよっとするとこの洲は大江の中に

孤立している島ではなくて

ここで桂川が淀の本流に合している

剣先なのではないか。

なんにしても木津、宇治、加茂、桂の諸川が

このあたりで一つになり、

山城、近江、河内、伊賀、丹波等、

五力国の水がここに集まっているのである。

谷崎潤一郎『蘆刈』より

「吉野葛・蘆刈」  
(岩波文庫)



桂川・宇治川・木津川 三川合流点

阪急大山崎駅で下車した主人公“わたし”は、月を見ようと酒びんをぶらさげ淀川の中洲へ。そこで出会った男の問はず語りに“わたし”はどンドンひきこまれて…。淀川の中洲を舞台に展開する『蘆刈』は、読み進むほどに夢と現実、過去と未来をつなぐ夢幻の空間がつむがれていく名作。

東京にいた谷崎が、関東大震災をきっかけに関西に移住したことで、彼の文学は大きな飛躍をとげたといわれています。

琵琶湖・淀川流域のグルメをぐるっとネット

も・ゆ・ぐ・る・す・た・つ

瀬田シジミ

## 時代を越え、母なる琵琶湖がはぐくむ味

シジミはシジミでも琵琶湖でしか取れない「瀬田シジミ」。皆さんはご存知ですか？

さかのぼること縄文時代、瀬田川周辺の人々が食べていたといわれる瀬田シジミ。昭和初期、大津市の石山寺前にある石山貝塚からは瀬田シジミの貝殻が数多く発掘されました。

普通のシジミより身が大きく肉厚であるのが特徴。栄養分豊富な水に恵まれた琵琶湖の砂地をすみかとする故です。肝臓の機能を活発にするメチオニン、スレオニン、ビタミンB12などが豊富に含まれているので、昔から、良薬としても知られていました。現在でも地元の方や観光客に好んで食され、シジミ汁や佃煮となって食卓に並んでいます。

しかし、近年、過度の捕獲や水質汚染により、瀬田シジミが減少。昭和30年頃は漁獲高が年間6000トンに上ることもありました。平成11年にはピーク時の約60分の1である100トンに。この状況を危ぶみ、漁業者や地元住民は増産に向けたさまざま

な取り組みを始めています。環境保護とシジミの増殖を願って、毎年4月23日「シジミの日」に大津市で開かれている「セタシジミ祭」も、その取り組みの一つ。

また最近では、シジミの水を浄化する働きも注目されています。

## ご飯のお供・食卓の人気者

石山寺の近くには瀬田シジミの料理を出すお店がたくさんあります。そのうちの1軒でいただいた「シジミ飯」。釜で炊きあげてあるので、米粒が光ってふっくらと。それに負けないくらい、シジミの身もふっくらと肉厚です。ひと口含むと、じわりじわりと広がる貝の風味。柔らかくて少し弾力のある歯触り。何度もおかわりしたくなる味です。

「シジミの時雨煮」は、刻んだ生姜とともに甘辛く煮たもの。しっかり味が染み込んでいるので、ご飯との相性も抜群。これがあれば、ご飯がいくらでも進みそう。混ぜご飯にしてもよし、また溶き卵に入れて焼いてもよし。食卓にあれば何かと重宝しそうです。

瀬田シジミは、水、砂などの必要な環境条件がそろってはじめて生きていくことができます。長い時を越えて琵琶湖がはぐくんできた味を大切に噛みしめながら、いま一度琵琶湖の環境について考えてみたいものです。



参加しよう!  
盛り上げよう!

あなたもフォーラムの一員

# 第3回世界水フォーラム

水不足や洪水被害、そして水環境の悪化.....

今、世界をとりまく水問題を解決するために、

市民、NGO・NPO、政府、専門家などさまざまな人々が世界中から集まり、  
分野を超えて知恵や経験を共有する場、それが「世界水フォーラム」。

そして、アジアで最初の世界水フォーラムが2003年3月16日から23日まで、  
京都・滋賀・大阪を結ぶ琵琶湖・淀川流域で開催されます。

そこでは、水に関する意見や情報の交換だけでなく、  
水をテーマにしたさまざまな交流イベントも行われます。



そして広がる

## “水のえん”

第3回世界水フォーラムの一環として琵琶湖・淀川流域の  
各地で開催される水に関するフェアそれが「水のえん」です。  
水をテーマに、誰もが参加でき、集い、歌い、踊り、話し合い、  
友情の絆を結び、感動を共に体験していく水のえんは、現在  
も京都、滋賀、大阪の各フェア会場や流域内の各地で開催中。

この特集では、世界水フォーラムの成功に向け、水のえんを  
広げる各地の取り組みをご紹介します。

興味をもったイベントを見つけて、参加して...さあ、あなた  
も世界水フォーラムの一員です!



次の時代に、  
新しい風を吹き込んでいきます。



時代はいま、新しい息吹を求めて、大きく動きはじめています。  
今日を生きる人々がいつも元気でいられるように、  
明日を生きる人々がいつもいきいきとしていられるように。  
日立は、人に、社会に、次の時代に新しい風を吹き込み、  
豊かな暮らしとよりよい社会の実現をめざします。

**HITACHI**  
Inspire the Next

日立の樹ホームページ公開中 <http://www.hitachi.co.jp/park/>

## 流域全体の参画と協働を目標に

第3回世界水フォーラム滋賀県委員会

参加しよう

琵琶湖を擁し、琵琶湖と人との共生が県民生活の大きなテーマの一つである滋賀県。当委員会は、この世界水フォーラムにおいて、琵琶湖保全の基本計画である「マザーレイク21計画」のもと、琵琶湖・淀川流域のすべての人た

▶「ナイル流域と琵琶湖・淀川」シンポジウム



ちの参画と協働による水の保全・管理を目標に、流域へ、そして世界へ滋賀の取り組みと魅力を発信していきます。

平成14年4月、アフリカのナイル川流域10カ国の水担当大臣を招いて開いたプレシンポジウムのテーマは、「ナイル流域と琵琶湖・淀川 流域の保全と管理の協働」。世界屈指の大流域・ナイルを取り巻く10カ国の協働と、琵琶湖・淀川上下流の協調事例をもとに世界の水問題を考えました。

そして同年7月には、世界水パートナーシップ技術委員会委員長のトルキル・J・クラウセン博士や国連環境計画国際環境技術センター所長のスティーブ・ホールズ博士など、国内外の水の専門家を招き、シンポジウム「水の未来を考える」を開催。住民、NPO、研究者など、水に関わるさまざまな人々がいっしょになって、世界の水問題の現状や課題について話し合い、その解決策を考えました。

さらに滋賀県は、第3回世界水フォーラムでの策定を目指している、世界の湖沼環境を守っていくための行動指針「世界湖沼ビジョン」のアピールにも積極的。国松滋賀県知事は南アフリカで開かれた国連環境サミットにも出席し、世界湖沼ビジョン策定への参加を世界に呼びかけました。



◀国松知事は国連環境サミットに出席

お問い合わせ 第3回世界水フォーラム滋賀県委員会事務局 ☎077-528-3354 077-528-4832

### びわ湖水フェア

開催日:平成15年3月19日(水)~21日(金・祝)  
場所:滋賀県立体育館、なぎさ公園、ピアザ淡海

アクアホール(県立体育館(未来発信ゾーン))県の基本計画「マザーレイク21計画」を世界に発信。また、NPOや県民グループ、企業などが日ごろの取り組みを展示・発表。

なぎさ公園(市民参加ゾーン)市民プラザ、サンシャインビーチを中心に「O2ステージ」や水にちなんだコンクール、ヨシイベントなどを開催。

ピアザ淡海(NPO県民交流ゾーン)NPO、県民グループによる「水」をテーマにした展示やシンポジウム、狂言、ミュージカル等の舞台発表。



## 市民のネットワークを広げて

第3回世界水フォーラム推進京都実行委員会

### 世界に届け「京都水宣言」

同委員会では、第3回世界水フォーラムの開催を契機に、これからの京都としての、水に対する行動や世界の水問題への貢献を発信するため、「京都水宣言(仮称)」を策定中。今後、公開シンポジウム等を経て府・市民の意見を盛り込んだ宣言文がフォーラム期間中に発表される予定です。

第3回世界水フォーラムの成功のために、そして、京都を世界へ発信するとともに、京都の人々の水への認識を深めることを目的に、平成14年1月に発足した京都実行委員会。水フォーラムの主会場は、国立京都国際会館であり、地元として会議支援、関連事業の展開、そして水に関連する情報の発信や市民参加の促進などに積極的に取り組んでいます。

水フォーラムに向けた市民やNGOなどの活動を積極的に支援するために開設したのが、「世界水フォーラム交流プラザ京都(京都市中京区)。ここは、同委員会事務局のほかに、水フォーラムや水に関する情報を収集・発信する「情報ひろば」や、展示・展覧会などで自由に「水」を表現できる「多目的スペース」を備え、自主的な市民の活動のつながりをベースに、水問題への関心の高まりや、世界水フォーラムへの参加の気運を盛り上げています。会議室を使って行われている水についての無料連続講座では、5回参加で水フォーラムへの参加チケット(1日分)をプレゼントするといったユニークな試みも。

京都実行委員会が平成15年3月21日からの3日間京都市勤業館「みやこめっせ」で開催するのが「水のえん2003in京都」。水に育まれた京都の歴史、文化、産業を中心に、日本、そして世界の水に関する文化や多様な水問題などが、工夫をこらした展示などで紹介されます。

参加しよう

水フェア京都会場  
水のえん2003in京都 **入場無料**  
開催日:平成15年3月21日(金・祝)~23日(日)  
場所:京都市勤業館「みやこめっせ」(左京区岡崎)

「京都 水の歴史館」  
3Dシミュレーションドームやパネル展示で、京都の太古から近代までの「京都の水」の歴史を紹介。

「京都名水探訪館」  
京都の名水を映像、写真、マップなどで紹介。試飲・名水クイズも実施します。

「くらしの味彩館」  
豆腐、生麩、漬物、京菓子、京野菜、清酒...日々の食生活に息づく京の食文化を探訪しよう!



ほか、ミュージカルの上演やワイドビジョンを使った水問題に関する情報提供など、盛りだくさんな内容です。

お問い合わせ 第3回世界水フォーラム推進京都実行委員会事務局 ☎075-229-3161 075-229-3162 URL:http://www.wwf3kyo.com/



# OSAKA

## 多彩なPR活動を展開

第3回世界水フォーラム大阪委員会

第3回世界水フォーラムでは、分科会や「水と都市」をテーマとする特別セッションなどが開催される大阪。当地の大阪委員会は平成14年4月の設立以来、水フォーラム参加者の交流の場を創出し、人々の水問題に関する意識を高め、水フォーラムの成功と大阪経済の活性化を図ることを目的に、多彩なプロモート活動を展開しています。

平成14年8月には、水フォーラムのイベントとして、江戸時代から淀川の舟運により強く結ばれてきた大阪と京都の中間の地、枚方で国、自治体、経済界の首脳を集めて「淀川船上サミット」を開催。水フォーラムに対する取り組みや河川を活用した舟運や観光振興についての意見交換を行ったほか、同じく8月、「全国舟運サミット」を開催し、そこでは河川を活用した地域活性化の事例発表が行われました。

私たちに身近な場でのPR活動も活発。水フォーラム開催の200日前となる8月28日からは、JR大阪駅前にカウントダウンモニュメント(残日計)を設置して、開催の機運を盛り上げているほか、毎年恒例の御堂筋パレードでは、

「世界水フォーラムキャンペーン隊」を編成して、水陸両用車とともに参加。大阪のメインストリートを埋め尽くした100万人に、「世界水フォーラムと「水の都」再生を大いにアピールしました。



◀御堂筋パレードでPR



JR大阪駅前にはカウントダウンモニュメントが

参加しよう

### 水に関するワークショップin大阪

開催日:平成15年3月20日(木)~22日(土)  
場所:大阪府立国際会議場

水問題に関心を持ち活動されている一般市民、NPO・NGO等の方々に集ってもらい、日ごろの成果発表や意見交換を行っていただく「水に関するワークショップin大阪」。ポスターセッション、パネルディスカッション、シンポジウム、セミナー、発表会等自由な発表形式で行われ、個人・団体が水への思いを発信します。

### 水のEXPO

開催日:平成15年3月18日(火)~22日(土)  
場所:インテック大阪  
(大阪市住之江区南港北)

商業や産業の都市として発展した大阪で、『水と都市と産業、そして~未来~つくり出す水と未来』をテーマに、生活や産業を支える水の役割、また、世界や国内の水問題と市民生活の係わりについて理解を深めるために、現状の取り組みの紹介、新しい技術、システム、製品の紹介を行います。

お問い合わせ 第3回世界水フォーラム大阪委員会事務局 ☎06-4803-8024 ☎06-4803-8026 URL:<http://www.worldwaterforumosaka.org/>



# BIWAKO・YODOGAWA

## 開催府県をつなぐイベントを開催

第3回世界水フォーラム琵琶湖・淀川流域連携実行委員会

世界水フォーラムの会場、京都、滋賀、大阪3府県をむすんで琵琶湖・淀川連携事業を実施している琵琶湖・淀川流域連携実行委員会。これまで、水フォーラム成功に向けての機運を高め、同時に流域の自然環境や歴史、産業などと水との関わりについての理解を深め、水の大切さを感じられる事業を展開してきました。

「琵琶湖・淀川舟運体験メッセージリレー」は、流域都市のパートナーシップを考えることをテーマに、江戸時

代から終戦直後まで舟運があったコースをたどり、舟運の歴史を体験しようというイベント。平成14年10月13日、大学生を中心とした舟運体験隊が、ヨシ舟で大津港を出発し、2日間かけて南禅寺船溜まり(京都)・三栖閘門を経て水晶橋(大阪)まで、滋賀・京都・大阪の3府県知事と大津・京都・大阪の3市長からの水に関する流域の未来へ向けたメッセージを受け取りながらの舟運を体験しました。

そして、11月1日から10日に流域各地域で行われたのが「近畿の湖沼と川をきれいに!クリーンアップキャンベ

ーン」。これは、流域の各地域で清掃活動を行っているNPOや団体に呼びかけ一斉清掃を行うことで、流域が一体となって水源を守り、水辺を美しく保全するムーブメントに発展させようというもの。期間中には公募により決まったキャッチフレーズ『輝く水面、明るい未来!』のもと、流域の19団体が参加して清掃活動が展開されました。また、そこで集められたゴミは詳細に分別・計量して報告されており、後に「クリーンアップ白書」として発行されます。



▶メッセージをたずさえて琵琶湖・淀川で舟運体験



近畿の湖沼と川をきれいに!クリーンアップキャンペーン

お問い合わせ 第3回世界水フォーラム琵琶湖・淀川流域連携実行委員会事務局 ☎06-6941-6222 ☎06-6941-6225



# 学んだよ! 考えたよ!



平成14年10月19日、25日、26日の3日間、琵琶湖周辺や淀川中下流域を舞台に実施した「ジュニアリバーズスクール」は、琵琶湖・淀川流域連携実行委員会と当機構共催の水フォーラムイベント。約300人の子どもたちの参加でにぎわった体験学習のようすをご報告します。

## in 毛馬排水機場 ・ 閘門



◀排水機場の操作室。  
「なんだか難しそうなお装置がいっぱいだ〜」

▶毛馬閘門通過体験。「貴重な体験。メモとらなくっちゃ!」



◀施設見学。  
「ポンプも発電機もデッカイ!」



## in 城北わんど



淀川の自然パネル展示。  
「イタセンバラって淀川にいるんだ...」

▶PACテストで淀川の水と水道水の水質を比較。「淀川の水はきれいかな...」



◀実体顕微鏡を初体験。  
「ねえねえ、どんなふうに見える?!」

## ジュニアリバーシンポジウム

開催日：平成15年3月9日(日)  
場所：京都リサーチパーク

ジュニアリバーズスクールで学んだ子どもたちが、自分たちで考えたことを報告し、世界の友達と交流を図ります。

## これからの琵琶湖・淀川流域連携事業

### アクアルネッサンス2003

～琵琶湖・淀川流域のパートナーシップ～

開催日：平成15年3月13日(木)～15日(土)

海外から研究者を招き、滋賀・京都・大阪の各地で、河川と湖沼の流域管理技術について、情報交換を図り、現状および将来に予想される課題についてワークショップやシンポジウムを開催します。

13日 滋賀：琵琶湖の保全とNPOとの交流

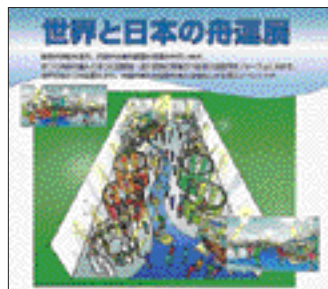
14日 京都：水質浄化技術について(講演、パネルディスカッション)

15日 大阪：国際シンポジウム(河川管理の技術について)

### 世界と日本の舟運展

開催日：平成15年3月21日(金・祝)～23日(日)

場 所：みやこメッセ(京都市)



地球温暖化の防止が叫ばれる今、環境負荷の低い舟運が見直されています。「世界と日本の舟運展」では、かつて琵琶湖・淀川流域において盛んであった舟運(舟で人やものを運ぶこと)について、世界と日本の舟の模型やパネルなどを利用してわかりやすく説明して、これからの舟運について考えていきます。

# ボクの、ワタシの 環境学習

よつこせBIYOセンターへ

平成14年の8月にBiyoセンターを見学に来た大東市寺川こども会エコクラブ。生駒山系の麓に広がる寺川地区の自然をフィールドに、環境学習を進める皆さんの活動をご紹介します。

## ホタル池から世界へ

近年、都市化の影響を受け始めた寺川地区の自然環境を守っていこうという思いで設立された寺川こども会エコクラブは、小学校4年生から6年生が中心メンバー。

活動の拠点は、寺川地区に流れる沢水を利用して大阪府が整備した「ホタル池」。この池でエコクラブは水生植物の調査やカワニナの放流、草刈りといった活動を行い、より豊かなビオトープ池になるようがんばっています。

その他、最近の活動では、市内を流れる寝屋川を見直すことを目的に、大阪市から大東市まで遊覧船でさかのぼる「寝屋川のぼり」といったイベントへの参加や、大東市内の川の水質調査を行っており、積極的な活動を展開して



Biyoセンターで水質浄化や琵琶湖について、楽しく学習しました。

▶「みなさん、おつかれさまでした」



います。

今後、エコクラブのホームページを立ち上げて、活動状況を広く発信しながら、全国のエコクラブなどの環境団体と連携を深めていくのが一つの夢です。

Biyoセンターに皆さんが見学に来てくれた日は、とても暑い日でしたが、水質浄化の実験施設や琵琶湖にふれながら、楽しく学習することができたようです。

## 海外水環境レポート



第3回世界水フォーラムに向けて、平成14年10月にフィリピン、マニラでワークショップが開催されました。当機構の和田主任研究員が参加しました。

「Regional Consultation Workshop on Water in Asian Cities」に参加して調査研究部主任研究員  
和田 桂子（写真左）

現在、世界人口の半数以上が、地球の陸域のわずか4%ほどを占めるに過ぎない都市部に集中していることから、様々な水問題が都市部において発生しており、大都市の水問題解決は、世界共通の課題となっています。

今回、私が招待されたのは、アジア開発銀行主催の「水と都市」をテーマとしたアジア地域の対話の会議です。これは、アジアの各都市における水問題解決の方策及び戦略を探るため、学識経験者の分析、ジャーナリストの報道、NGOの問題認識・行動など市民社会におけるそれぞれの役割や参加に対して議論を行うもので、平成14年10月14日～16日フィリピン、マニラの国際会議場で開催されました。

会議には、バングラディッシュ、カンボジア、香港など、およそ20のアジアの都市から学識経験者、ジャーナリスト、NGOの地域代表、Ondeo、Vivendi等の民間部門及びUN-Habitat、WHO、JICA、JBICの援助機関など約100名が参加しました。

まず、前もって各国で集計された「水と都市」のアンケート結果について、給水網整備率や費用・料金などの観点から比較・検討された報告、続いて各代表によるプレゼン

テーションが行われた後、水供給の問題、高い料金や民営化について次々に参加者の意見が交わされ活発な議論となりました。私たち大阪代表も特別に機会を頂きプレゼンテーションを行いました。また、出席者全員が、将来の都市における水問題の解決のために8つの課題に対してWhat? How? Who?の視点からグループディスカッションを行い、レポートをとりまとめました。これをもとに平成15年3月の世界水フォーラムに向けてさらに取り組みが進められていくことになります。

私がこの会議に参加して実感したのは、日本とアジアの発展途上国とでは、水に対する問題意識に大きな差があるということです。例えば、水質ひとつとっても、国によっては、毎日の飲み水が汚染されているため生死に関わる問題であり、安全な飲み水が充分確保されている日本の私たちにとってその深刻な実態は容易に想像がつかないと思います。今回、様々な水問題についてアジアのいろいろな国の人たちと一緒に議論したことは、私にとって非常に貴重な経験であり、大変勉強になりました。これからも出会った人たちとのつながりを大切にしていきたいと思います。



会議風景

大阪 「水の都」 大阪の再生

「水の都」天下の台所。古くから使われている大阪の呼び方です。豊臣秀吉の時代や江戸時代にはたくさんの堀川(運河)が掘られました。河村瑞賢の安治川新川開削工事はよく知られています。排水と地面のかさ上げ、商業交通に役立つ舟運などがその目的。その原動力は淀屋に代表されるような当時の「大坂」経済を支えた商人などまちの人たちでした。明治以後も主に舟運目的で運河が掘りつけられ、近代大阪の発展に繋がります。戦後、運河の多くは埋め立てられ、今では道頓堀川や東横堀川などが面影を残しています。交通は道路が主役になり、商業としての舟運は衰退。川と人々のくらしの結びつきが少し薄れてしまったのでは。そんな心配をよそに、現在でも大阪人のパワ―は健在です。「道頓堀川」で水泳大会を開催。このような斬新な発想を企画実行する市民団体が活躍し、川を軸にした活動を活発に繰り広げています。水泳大会は平成16年開催予定でそれまでに行行政、市民、企業が協調しながら河川浄化への取り組みを促進させるといふもの。この他にもさまざまな取り組みが市民団体やNPO等の活動で実施されています。



「浪速天神祭」(大阪府立中之島図書館蔵)

「水都大阪」の再生を決定。平成14年10月1日には、「水の都大阪再生協議会」が大坂府・大坂市・国の機関、経済界等により設立しました。道頓堀川、東横堀川、堂島川、土佐堀川、木津川等。「水の都」の礎を成してきたこれらの川を、水の回廊」と位置づけ、舟運、景観などに重点を置き、公民協働で魅力あふれる大阪のまちづくりを進めていくというもの。「水の都」大阪が新しく生まれ変わろうとしています。平成15年3月には琵琶湖・淀川流域の大阪、京都、滋賀を舞台に第3回世界水フォーラムが開催されます。各国の市民・NGO・団体等が集い、さまざまな議論がなされる中で、「水の都」大阪の歴史と現在の取り組みが世界の水問題解決の一助となるのではないかと考えています。

大阪府企画調整部企画調整室  
広域調整課

次回は奈良県からのメッセージです。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 賛助会員(50音順)

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| (株)アイ・エヌ・エー関西支店      | 帝人エコ・サイエンス(株)        |
| (株)アクアテルス 琵琶湖事業部     | (株)東京建設コンサルタント関西支店   |
| (株)アスコ               | 東洋電化工業(株)            |
| (株)和技研               | (株)西日本技術コンサルタント      |
| (株)環境科学コーポレーション関西事業所 | (株)日建設シビル            |
| 近畿技術コンサルタンツ(株)       | (株)日水コン              |
| (株)クリアス              | 日本建設コンサルタント(株)大阪支店   |
| (株)建設環境研究所           | 日本工営(株)大阪支店          |
| (株)建設技術研究所大阪支店       | 日本メンテナンスエンジニアリング(株)  |
| 国際航業(株)関西事業本部        | (株)ニュージェック           |
| 国土環境(株)              | パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 |
| 滋賀県下水道保全事業協同組合       | 八千代エンジニアリング(株)大阪支店   |
| (株)修成建設コンサルタント       | (株)ユニチカ環境技術センター      |
| (株)新州                |                      |

計27社

【広告募集】

機関誌BY BLUEに広告掲載を希望される水環境関連の企業・団体を募集します。広告掲載料等のお問い合わせ、広告の申し込みにつきましては、(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 企画開発部まで。

「BY BLUE」とは.....  
「琵琶湖(BIWA KO)、淀川(YODOGAWA)を青く(BLUE)美しく」という願いから名づけられました。

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。



財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構  
Lake Biwa-Yodo River Water Quality Preservation Organization

〒541-0041 大阪市中央区北浜1丁目1番30号 横井北浜ビル3階

☎06(6202)1267(代表) FAX06(6202)1317

E-mail:biyokiko@byq.or.jp http://www.byq.or.jp

「BY BLUE」は再生紙を使用しています

MITSUBISHI

Changes for the Better

より安全でおいしい水づくり  
三菱オゾン発生装置

三菱電機株式会社 関西支社 〒530-8206 大阪市北区堂島2丁目2番2号(近鉄堂島ビル) TEL(06)6347-2084